

## 第26回 I E A 閣僚理事会 議長サマリー仮訳

2017年 I E A 閣僚理事会は、2017年11月7日～8日、パリにおいて、イブラヒム・バイラン・スウェーデン政策調整・エネルギー大臣の議長により、「持続可能な世界の成長のためのエネルギー安全保障の強化」の表題の下、開催された。

29の I E A 加盟国からかつてない数の閣僚、10の加盟準備国・アソシエーション国・パートナー国の閣僚、I E A エネルギービジネス評議会（EBC）から約30名の経営トップが出席した。オープングレセプションにおいて、閣僚は I E A の次なる30番目の加盟国としてメキシコを熱く歓迎した。

閣僚理事会の全体的な意見として、エネルギー転換は、拡大する経済成長、エネルギー安全保障の強化、堅固で強靱なエネルギーシステムの促進、地域環境及びグローバルな気候に関する目標に向けた推進力であることが挙げられた。

I E A の将来の努力において、閣僚及び経営トップは、世界の温室効果ガス排出量の3分の2はエネルギー部門が要因であり、エネルギー部門の政策とエネルギーのイノベーションが、気候変動への対処に決定的な役割を果たすとの力強い認識を繰り返し表明した。これらの野心を実現するため、権威あるエネルギー分析、データ及び統計に係る世界の優れた情報源、並びにグローバルなエネルギー課題における効果的な国際連携のためのプラットフォームとしての I E A の重要性が強調された。

閣僚と経営トップは、以下の I E A の現代化の3つの柱に対し、ファティ・ビロル事務局長のリーダーシップの下、2015年の I E A 閣僚理事会以降の I E A による著しい進展を強調し、歓迎した。

(i) メキシコの加盟とブラジル、中国、インド、インドネシア、モロッコ、シンガポール及びタイとのアソシエーション・パートナーシップを含む重要な新興経済国との関係強化

(ii) 21世紀の新たな課題に対する加盟国の対応を支援するため、エネルギー安全保障に係るコミットメントの強化及び拡大

(iii) クリーンエネルギー大臣会合事務局を含む世界のクリーンエネルギー・ハブとしての役割強化

この目標に向けて、閣僚は、I E Aの更なる現代化に向けた取組を主導する事務局長を、引き続き強力に支援することを再確認した。

新たに設立されたクリーンエネルギーの教育と自立に係る技術協力プログラム（TCP）を通じたクリーンエネルギーにおける女性についてのサイドイベントに関し、会合では、適切な将来の代表やエネルギー部門の長期的な発展に向けた能力確保のための多様性及び男女の平等の重要性が主要な論点となった。

グローバルなエネルギー安全保障が発展する中、参加者は、エネルギー安全保障がI E Aのミッションの核であることを再確認し、安全で、手頃な価格で、効率的かつ持続可能なエネルギーシステムを促進するための継続的な取組にコミットした。また、エネルギー安全保障の広範な解釈に関連し、重大かつ積極的な技術変化が、新たなエネルギー安全保障の課題への対処に不可欠である健全な政策や規制設計をもたらすことに留意した。

議論の主要な論点として、中長期のエネルギー安全保障への影響や、グローバルなエネルギーシステムの急速な転換期における発展及び影響の全般的な見通しを可能とし、全てのエネルギーミックスを対象とする唯一の機関としてのI E A固有の位置付けが挙げられた。

閣僚は、I E Aの石油緊急時政策と、備蓄義務の遵守が決定的に重要であることを確認した。閣僚は、事務局が、加盟国とともに、緊急時石油備蓄要件の改善の可能性に係る評価を実施することを要請した。

閣僚はまた、事務局に対し、石油緊急時問題に関するパートナー国との密接な関係を促進するための現在の取組を強化することを要請した。これらの取組は、I E A発足以降の石油市場の発展と将来に起こり得る発展を考慮すべきであり、理事会及び2019年の閣僚理事会に報告される。

天然ガスが、世界のエネルギーミックスにおいて、一層の役割を持ち、電力安全保障及び柔軟性の維持、大気汚染の改善のために重要であることが注目された。同時に、液化天然ガス（LNG）の増加が天然ガス市場を国際化させていることが留意された。

このため、閣僚は、前回の閣僚理事会以降のガス安全保障に関する作業の進展を歓迎し、透明性の改善、一層の柔軟性の促進及び世界のガス／LNG市場の

一層の強靱性への支援による、世界のガス安全保障の強化に対する事務局の更なる貢献を要請した。

世界経済における電力の役割の拡大に伴い、大規模な途絶に係るコスト及び安全保障リスクが増大する。I E A加盟国が、非常に高水準のシステム信頼性を実現してきた一方で、電力供給の安全保障を確保するための既存の手法は、21世紀の課題に対し十分に機能しないことが想定される。

従って、閣僚は、電力安全保障が死活的に重要であることを認識し、事務局に対し、既存の計画を踏まえ、この領域の分析を継続することを要請した。この作業は、分散エネルギー源、電力システムの地理的統合、負荷配分可能な電源、貯蔵、需要側の措置及び再生可能エネルギーのシステム統合に係る領域における政策と市場設計戦略に焦点を当てるべきである。

閣僚は、クリーンエネルギーの将来に向けて前進するために、各国の情勢に応じて、加盟国、パートナー国及び民間部門の設計や実務履行の努力を支援する分析ツールの強化のための全般的な目標とともに、技術、政策及び市場設計への集中を含む世界のクリーンエネルギー・ハブとしてのI E Aの役割を更に強化することを支持した。当該作業は、効率性、他の国際機関との協力及び努力を最大化しつつ、環境問題への対応、エネルギー安全保障の向上、経済成長・雇用・低廉性の促進を約束する方法で実行されるべきである。

閣僚理事会初日である2017年11月7日、閣僚は、I E Aのクリーンエネルギー転換プログラムの始動を称賛するとともに、パリ協定の目標に沿った温室効果ガスの排出削減等、より持続可能なエネルギー使用に向けた、世界的な転換の速さと将来性に大きな影響を与え得るエネルギー政策を掲げる参加国政府を支援するため、I E Aの能力をより十分に活用するための加盟国の取組を高く評価した。

さらに、閣僚は、広範囲にわたる分析や政策支援を通じた、エネルギー効率におけるI E Aの取組の強化及び拡大に敬意を表すとともに、I E Aの新たなエネルギー効率のためのグローバル交流プラットフォームの発足を称賛した。また、閣僚は事務局に対し、全ての分野において地球規模にわたり、I E Aがグローバルハブとしての役割を担うという文脈において、エネルギー効率に関する取組を引き続き強化することを求めた。

この取組に鑑み、閣僚からは、国際省エネルギー協力パートナーシップ（IPEEC）と共同で、IEA内における特別な活動としての国際省エネルギーハブ設立に向けたG20イニシアティブなどを通じ、エネルギー効率におけるIEAの包括的な取組の更なる強化を強く促す声があった。

技術進展とイノベーションに関し、閣僚は、エネルギーの研究及び技術のためのIEA中期戦略（2018－2022）を支持し、共有されたイノベーションの優先事項を加速するための技術協力プログラムを強化し、IEA技術ロードマップの野心的な第二段階を発展させるために官民の関係者と協働し、クリーンエネルギー進捗トラッキングの取組を改善し、また、ミッション・イノベーションを支援することで、新たなクリーンかつ持続可能なエネルギー技術への官民の投資を増加し、コストを低減し、また広く利用可能で市場の整備されたものとするにより、IEAのエネルギー技術ネットワークの強化を要請した。

エネルギーシステム全体を見渡し、参加者は、経済的かつ安全で持続可能なエネルギーセクターの発展における冷暖房の大きな重要性及び持続可能な冷暖房及び統合されたエネルギーシステムに向け、市場ベースで技術中立的かつ、消費者主導のエネルギー転換を加速させるためのさらなる努力が必要となることも確認した。

閣僚は、世界のエネルギー需給における主要新興国の重要性の高まりを再認識し、特にブラジル、中国、インド、インドネシア、モロッコ、シンガポール及びタイとのアソシエーション・イニシアティブを通じた、2015年以降のIEAによる「門戸開放」の進展を歓迎した。IEA加盟国、アソシエーション国及び加盟申請国を含むIEAファミリーは現在、世界のエネルギー消費の70%以上を占めている。

さらに、閣僚は、2015年の閣僚理事会にて始動したアソシエーション・イニシアティブが深化、拡大したことを歓迎した。閣僚は、特にエネルギー安全保障、データ及び統計、エネルギー政策分析並びにクリーンエネルギー利用拡大に向けた支援をはじめとした互いに関心のある主要課題を網羅したアソシエーション国との包括的共同作業計画の発展を認識し、各委員会、出版物の対象及び発表、そして技術援助を含む幅広いIEAの活動におけるアソシエーション国のさらなる関与を支持した。

閣僚は、IEAとの将来的な協力に関し、新興国が各国のエネルギー分野の優先事項に基づく様々な期待を有していることを認識するとともに、全てのIEAファミリーの熱意を充足し、安定的かつ持続可能な資源に基づく形で、協力に向けて権利と責務の相互に満足のいくバランスを確立することの重要性を認識する。これらの課題認識の観点から、事務局に対し、アソシエーションのプロセスを強化するとともに、最終的なIEA正式加盟の潜在的な可能性を含む制度上の関係性の更なる発展の選択肢に関する分析を行うことを要請した。

政府・産業間対話における議論の後、閣僚は、世界のエネルギーシステムの信頼性、持続可能性及び低廉性を向上させるため、産業界との緊密な対話が重要であることを強調した。閣僚は、事務局に対し、投資、イノベーション、新たな融資メカニズム及びビジネスモデル、デジタル化並びにクリーン技術をはじめとする、共に関心を有す新興分野における様々な分野の業界との緊密な関係構築を継続的に行うことを奨励した。

特にこの観点から、閣僚は、IEAによるデジタル化とエネルギーに関する初のグローバルな調査を歓迎し、事務局に対し、OECD、G7、G20及び国際スマートグリッド行動ネットワーク（ISGAN）を含む様々なTCPによる取組を補完・付加する形で、このような重要なトピック及びそれがエネルギー安全保障、持続可能性及び経済成長に与える示唆に関する分析を更に深めることを求めた。

IEAにとって持続可能な道筋を確保するため、閣僚は、加盟国の意思決定プロセスを完全に維持・改善する一方で、最も効率的で合理的な方法をもって、全ての考え得る要素や資金源を検討するという計画を歓迎した。

世界のエネルギー情勢を俯瞰する国際機関として、G7、G20及び他の国際的及び地域的な機関及びプロセスとの緊密な協力を支援するIEAの積極的な役割の重要性が強調された。

さらに、閣僚の議論は、設立から数十年間、世界のエネルギー情勢が大きく変動する中、IEAがその進化への対応に成功してきていること、さらに世界のエネルギー市場の力強い深化に鑑み、目標を効果的に達成するための能力を継続的に有するよう、IEAを支援し、その地位を確立させる必要性に焦点を当てた。

主要な目標である、I E Aの継続的な現代化のための継続性と安定性のため、閣僚は、I E A事務局長が2期目を務めることが可能であることを歓迎し、閣僚理事会後現実的に可能となり次第、再選の決定がなされることを促した。